日墨戦略的グローバルパートナーシップ研修計画報告書　12 月

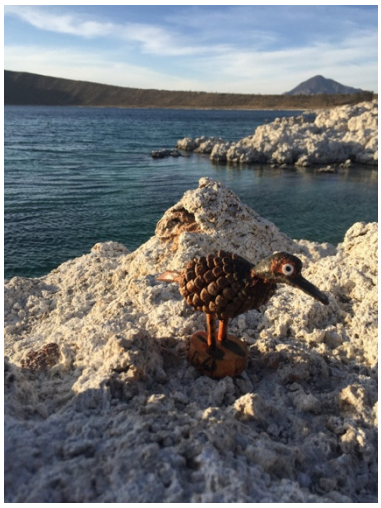
伊達椋平

2019 年、新しい年を迎え、これから新たな気持ちでこの 1 年を良い年にしようと意気込んでいるところでこのレポートを書いています。皆様は良い年越しをすごされましたでしょうか。

12 月の期末テストが終わり、約 1 ヶ月の長い冬休みに入りました。以前から計画を立てていたのですが、ようやくメキシコシティを離れ他の州へ行くことができました。都会の空気は重たく霞みがかっており、多くの人が行き交うなかで常に気を張って生活しなければならない環境だったので、それらから逃げるような気持ちでシティを離れたのが私の本音です。メキシコでは年に 2 回の大型連休の間（12 月と 7 月）学生と教員、そして 60 歳以上の方は長距離バスの運賃が半額になるので、それを利用することでお得にメキシコを回ることができました。今、冬休みも終わろうとしているところ、私は３つの場所を訪れました。

まずは、プエブラ州を訪れました。目的は田舎の結婚式に参加することでしたので、州の中心からかなり離れた San Sarvador El Seco Puebla という場所の小さな村に滞在していました。メキシコの田舎の空気は都会の空気とはかけ離れてとても澄んでいて、バスを降りた瞬間、移動による疲れも吹き飛ぶようでした。高い建物はなく、道路も未舗装なところが見られ、明かりも少なめのこの街は、まさに自然を感じながら過ごせる場所です。車の後ろをのんびりとロバが荷車を引いていたり、夜には満点の星空を眺めることができたり、そして何より真夜中に出歩けるほど治安が良く落ち着いた雰囲気が私はとても気に入りました。
さて、結婚式の様子ですが、まずは教会で式を行いました。参加した人々はある程度整った格好（ワイシャツに革靴）をしていたものの、それ以外は特に飾った様子は見られないほど自由な装いでした。式が終わるとマリアッチの生演奏とともに歩いて場所を変え、通りに大きなタープで屋根を作った開放感のある会場で食事をします。この会場は夜のフィエスタと次の日の昼食まで使われます。１番の山場はやはり夜のフィエスタで、爆音とも言えるほどの音量の音楽とともに、村中の誰もが参加して飲んだり食べたり踊ったりできるとても賑やかで開かれたものでした。結婚式独特の催しとして２つのダンスが踊られ、一つは新郎が七面鳥を抱えながら周りの人がビールやら炭酸飲料やらをかけあ

うもの、もう一つは新郎がエプロンとホウキを持った姿、新婦はその後ろでムチを持って踊るという二つとも滑稽な踊りで会場を沸かせました。由来については聞きそびれてしまいました、すみません。。。兎にも角にも異国の地でこのようなおめでたい場面に立ち会えたことは私にとってとても嬉しい出来事でした。



←プエブラのチチカカ湖にて

次に、ハリスコ州のプエルトバジャルタを訪れました。ここは綺麗なビーチがある観光地として有名で、主にアメリカに住む人たちがバカンスを楽しみにくる場所でもあるようです。冬でも日中は半袖半ズボンで過ごせるほど暖かく、カンクンよりも物価が安いので学生が羽をのばすぶんにも非常に良い場所でした。至る所で手軽にアクティビティの相談、予約ができます。海が近いこともあり、魚介類が美味しく、レストランで食べたエビとタコのタコンと呼ばれる食べ物は絶品でした。他にもテフイノと呼ばれるご当地の飲み物もお勧めします。トウモロコシの粉とレモンと塩でできたシンプルな飲み物で、爽やかさが海辺の街を歩くのにピッタリとマッチします。

最後にサカテカス州を訪れました。サカテカスは鉱業で栄えた街で、綺麗な石でできたブレスレットや置物が売られているのを至る所で見かけます。私にとってメキシコ北部を訪れるのは初めてだったのですが、まず気にとまったのが、

ほとんどの男性がソンブレロと呼ばれる帽子を被っていることです。南部ではほとんど見ることはありませんでしたが、この地では日差しが強い弱いに関わらず常に帽子をかぶった男性を見かけます。女性はブーツにジーパンが多いみたいです。その他にも、顔立ちが欧米に近かったり、ダンスが南より簡単だったり、話し方が少し丁寧だったりと、今回のサカテカス旅行はメキシコの南と北の違いを多く気づくことができました。